

Asia Indicators

発表日: 2021年10月1日(金)

韓国、9月の輸出額は過去最高を更新(Asia Weekly(9/24~10/1))

～世界的な半導体需要の堅調さが輸出の追い風になる動きが続いている～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/24(金)	(台湾)8月輸出受注(前年比)	+17.6%	+20.7%	+21.4%
9/27(月)	(台湾)8月鉱工業生産(前年比)	+13.69%	--	+14.36%
9/28(火)	(マレーシア)8月輸出(前年比)	+18.4%	+14.6%	+5.0%
	8月輸入(前年比)	+12.5%	+24.5%	+23.9%
	(香港)8月輸出(前年比)	+25.9%	--	+26.9%
	8月輸入(前年比)	+28.1%	--	+26.1%
9/29(水)	(タイ)金融政策委員会(政策金利)	0.50%	0.50%	0.50%
	8月製造業生産(前年比)	▲4.15%	±0.00%	+3.92%
9/30(木)	(韓国)8月鉱工業生産(前年比)	+9.6%	+8.2%	+7.7%
	(中国)9月製造業PMI	49.6	50.1	50.1
	9月財新製造業PMI	50.0	49.5	49.2
	(香港)8月小売売上高(前年比・数量ベース)	+10.6%	--	+0.7%
10/1(金)	(韓国)9月輸出(前年比)	+16.7%	+16.3%	+34.8%
	9月輸入(前年比)	+31.0%	+27.0%	+44.0%
	(インドネシア)9月消費者物価(前年比)	+1.60%	+1.69%	+1.59%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]～半導体輸出の堅調さは生産を押し上げるとともに、9月の輸出額は月次ベースで過去最高を更新～

30日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比+9.6%となり、前月(同+7.7%)から伸びが加速した。ただし、前月比は▲0.70%と前月(同+0.18%)から3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど、底入れの動きを強めてきた流れは大きく変化しつつある。鉱業部門で生産に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、製造業においても調整圧力が強まるなど、幅広い分野で生産が鈍化している。財別では、主力の輸出財で世界的に供給不足が続く半導体をはじめとする電子部品関連の生産は拡大が続いているほか、自動車をはじめとする輸送用機械関連の生産にも底堅い動きがみられる一方、電気機械関連の生産に下押し圧力が掛かっているほか、これまで堅調な動きをみせてきた化学製品関連の生産も頭打ちしている上、食料品や衣料関連など軽工業関連の生産も鈍化するなど、幅広い分野で生産に下押し圧力が掛かっている。変異株による新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染再拡大を受けて行動制限が再強化されていることも、少なからず生産活動に悪影響を与えているとみ

られる。

1日に発表された9月の輸出額は前年同月比+16.7%となり、前月（同+34.8%）から伸びが鈍化した。ただし、当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移して単月ベースの輸出額は過去最高を更新している。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連が堅調な動きをみせているほか、価格上昇の影響で鉄鋼製品や石油製品関連の輸出額が押し上げられている一方、自動車関連の輸出は頭打ちするなど分野ごとに跛行色が鮮明になっている。一方の輸入額は前年同月比+31.0%となり、前月（同+44.0%）から伸びが鈍化した。ただし、前月比は4ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に底入れの動きが続いている。輸出の堅調さを反映して素材及び部材に対する需要が輸入を下支えしているほか、国際商品市況の上昇の動きも輸入額を押し上げている。結果、貿易収支は+42.02億ドルと前月（+16.46億ドル）から黒字幅が拡大している。

図1 KR 鉱工業生産の推移

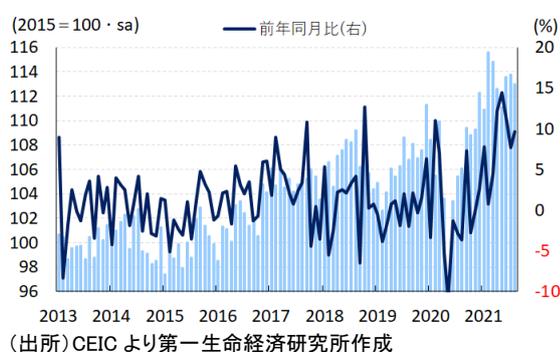
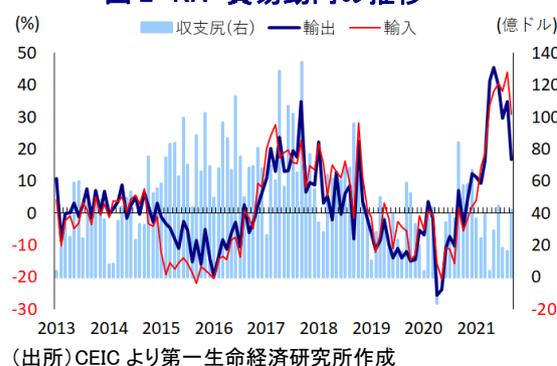


図2 KR 貿易動向の推移



[インドネシア]～食料品を中心に物価に下押し圧力が掛かるなか、インフレ率は引き続き目標を下回る推移～

1日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+1.60%となり、前月（同+1.59%）からわずかに伸びが加速したものの、引き続き中銀の定めるインフレ目標（ $3 \pm 1\%$ ）を下回る推移が続いている。前月比は▲0.04%と前月（同+0.03%）から3ヶ月ぶりの下落に転じており、国際原油価格の上昇の動きを反映してエネルギー価格は上昇している一方、生鮮品をはじめとする食料品価格は下落するなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.30%となり、前月（同+1.31%）からわずかに伸びが鈍化している。前月比も+0.13%と前月（同+0.21%）から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れを反映して一部の財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染一服による行動制限の緩和を受けた経済活動の正常化は一部のサービス物価を押し上げる動きがみられるものの、一般的にデシインフレ圧力が掛かりやすい状況が続いている。

図3 ID インフレ率の推移



[台湾]～半導体関連の受注は引き続き堅調も、世界経済の減速懸念は受注及び生産の重石となっている～

24日に発表された8月の輸出受注額は前年同月比+17.6%となり、前月(同+21.4%)から伸びが鈍化した。前月比も▲2.90%と前月(同▲0.72%)から2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も頭打ちの様相を強めるなど、底入れの動きをみせてきた流れが一巡しつつある。国・地域別では、最大の輸出相手である中国本土向けに底堅い動きがみられるものの、米国向けや欧州向け、日本向けなど先進国向けに総じて下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、ASEAN(東南アジア諸国連合)向けなどアジア新興国向けも鈍化するなど、世界経済の回復の動きに一服感が出ていることが影響しているとみられる。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の受注は引き続き堅調に推移している一方、それ以外の幅広い分野で頭打ちする動きが確認されるなど、世界経済の頭打ち懸念が強まっていることが受注の重石になっていると見込まれる。

27日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比+13.69%となり、前月(同+14.36%)からわずかに伸びが鈍化した。前月比も▲0.98%と前月(同▲1.32%)から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も頭打ちを強めるなど、底入れしてきた流れは一巡しつつある。製造業の生産動向に底堅い動きがみられる一方、鉱業部門の生産に大きく下押し圧力が掛かったことが生産全体の重石となっている。また、全体として底堅い動きが続く製造業のなかでは、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の生産は堅調に推移するとともに、医薬品関連の生産も堅調な動きをみせる一方、電気機械関連や輸送用機械関連のほか、化学製品など素材及び部材関連の生産は弱含んでおり、世界経済の減速懸念が生産活動の重石になっている様子が見えてくる。

図4 TW 輸出受注の推移

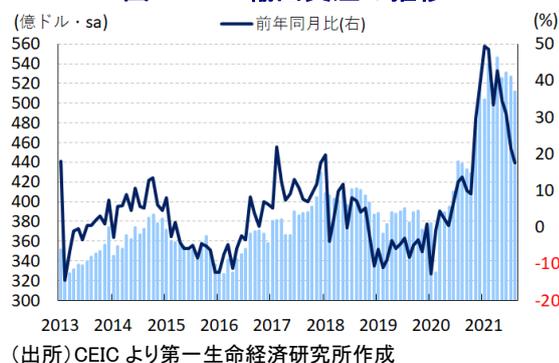
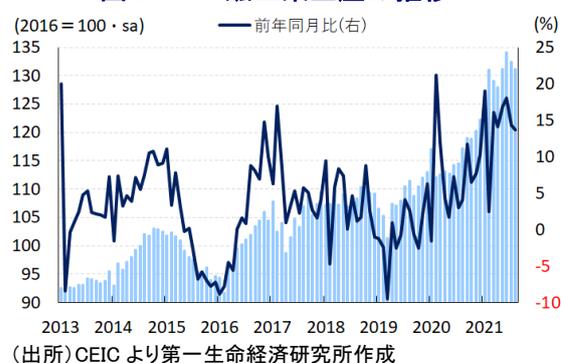


図5 TW 鉱工業生産の推移

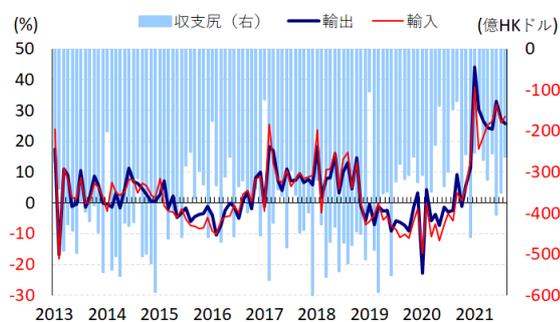


[香港]～世界経済の頭打ち懸念が輸出の重石となる一方、商品市況の堅調さは輸入を押し上げる展開～

28日に発表された8月の輸出額は前年同月比+25.9%となり、前月（同+26.9%）から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も頭打ちの様相を強めるなど底入れしてきた流れは変化している。中国本土向けやASEAN（東南アジア諸国連合）向けなどアジア新興国向けに底堅い動きがみられる一方、米国向けや欧州向けは頭打ちの様相を強めるなど、変異株による新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染再拡大の動きが世界経済の足かせとなっていることが影響しているとみられる。一方の輸入額は前年同月比+28.1%となり、前月（同+26.1%）から伸びが加速した。前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど、頭打ちの動きをみせる輸出と対照的に底堅い動きが続いている。原油をはじめとする国際商品市況の上昇の動きが続いており、輸入額が押し上げられていることも影響している。結果、貿易収支は▲262.98億HKドルと前月（▲349.81億HKドル）から赤字幅が縮小している。

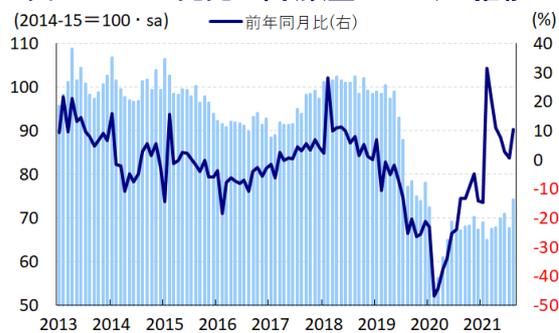
30日に発表された8月の小売売上高（数量ベース）は前年同月比+10.6%となり、前月（同+0.7%）から伸びが加速した。前月比も+9.75%と前月（同▲4.65%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。世界的な半導体不足による自動車生産の低迷なども影響して自動車販売に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、宝飾品などの高額消費や家具などの耐久消費財に対する需要は堅調な推移をみせているほか、食料品をはじめとする生活必需品に対する需要も底堅く推移しており、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染一巡による経済活動の正常化を受けてpent-up・デマンドが顕在化していることも需要を下支えしているとみられる。

図6 HK 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図7 HK 小売売上高(数量ベース)の推移

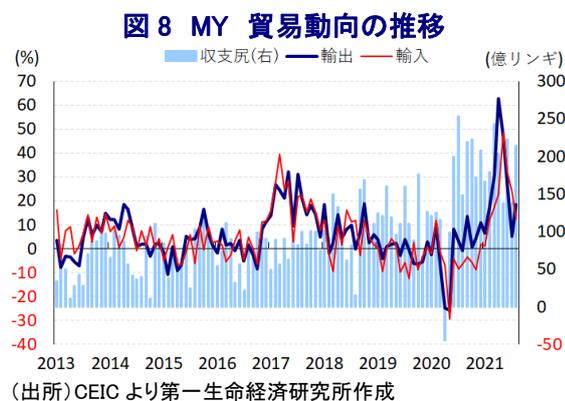


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～行動制限の再強化による幅広い経済活動への悪影響は輸出入双方の重石となっている模様～

28日に発表された8月の輸出額は前年同月比+18.4%となり、前月（同+5.0%）から伸びが加速した。前月比は+4.7%と前月（同▲18.6%）に大きく下押し圧力が掛かった反動で2ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は拡大ペースが鈍化するなど頭打ちの様相を強めている。同国内における変異株による新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染再拡大を受けた行動制限の再強化により、幅広く生産活動などの重石になっている影響のほか、通関業務などの足かせとなっている可能性がある。一方の輸入額は前年同月比+12.5%となり、前月（同+23.9%）から伸びが鈍化した。前月比も▲10.4%と前月（同▲7.7%）から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど急速に頭打ちの動きを強めている。輸出が頭打ちの動きを強めていることを反映して素材及び部材関連の需要に下

押し圧力が掛かっているほか、行動制限の再強化の動きも輸入の重石になっているとみられる。結果、貿易収支は+213.88億リングと前月（+137.57億リング）から黒字幅が拡大している。



以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。